

成果の説明書

(氏名) 佐藤 公俊	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
(1) 教育活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度は昨年度に引き続き、3、4 年生のゼミナール活動に関して、例年 9 月に行っている夏合宿、12 月に行っている茨城大学、富山大学、新潟大学、中京大学等とのインカレ合宿を行うことができなかった。そのため見聞を広めるための活動として、群馬県のご協力をいただいて、7 月に県央ワクチン接種センターとしての機能を果たしていた G メッセ群馬（群馬コンベンションセンター）の現地調査を行い、指定管理制度の分析を行うなどの活動を行った。 	
①ゼミナール活動に関して、地域政策学部ゼミナール協議会主催の「三扇祭学内プレゼンテーション大会」（オンライン開催）に 3 年生 3 チームと 2 年生 2 にチームの計 5 チームが出場した。結果として、2 年生 A チーム「日常に潜む食品廃棄」が第 2 位、Taka Park 調査隊「まちなか公園」が第 3 位を獲得した。	
②3 年生のゼミナール活動に関して、オンラインで開催された「第 60 回日本学生経済ゼミナール関東部会（インナー大会）プレゼンテーション部門」に 3 チームが出場した。その内、たか Park 調査隊はブロック優勝し、オンラインで行われた 11 月 14 日（日）の本選（132 チーム中 12 チームが進出）に進むという成果を収めた。これまでインナー大会では 2016 年度、2019 年度、2020 年度のブロック 2 位獲得の実績があるが、ブロック優勝および本選出場は初めてであり、今後の活動につなげていきたいと考える。	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のゼミ活動を総括すると、課外活動がほとんどできなかったこと以外は充実したものであった。地域政策学部ゼミナール協議会主催の「三扇祭学内プレゼンテーション大会」において、インナー大会でブロック優勝した 3 年生チームの順位を基礎演習開始一か月の 2 年生チームが上回ったことは、プレゼンの本質などを考えるうえで非常に勉強になった。 	
(2) 研究活動	
【学会活動等】	
①日本地域政策学会常任理事・広報委員長として運営に関った（2018 年 7 月～現在）。	
②日本地域政策学会政治行政部会に参加した。	
③日本公共政策学会学術委員会総合政策査読小委員会委員として運営に関った（2018 年度～現在）。	
【公表論文等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都港区の正史である『港区史』第 6 章「港区の税財政」の分担執筆を行った（「予算と歳出」担当、2017 年度より執筆を開始し 2021 年 4 月に決定稿を入稿、現在校正中であり 2023 年 3 月に刊行予定）。 	
(3) 学内行政	
<ul style="list-style-type: none"> ・副学長（教育担当）として業務を執り行った。 ・基礎教育センター長として、業務を執り行った。 ・公立大学法人高崎経済大学理事として職務を執り行った。 	
(4) 社会貢献	
①群馬県関係	
<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県立文書館運営協議会委員として活動した（2010 年度より継続）。 ・群馬コンベンションセンター指定管理者評価委員会委員をつとめた（2020 年度より継続）。 	
②安中市関係	

<ul style="list-style-type: none"> ・安中市行政改革審議会委員として活動した。(2012 年度より継続)。2018 年度より行政改革審議会会長をつとめている。 ・公立碓氷病院あり方検討委員会委員 (副委員長) として活動した (2015 年度より継続)。 ・安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 (会長) をつとめ、第 2 期総合戦略を策定した (2015 年度の第 1 期より継続)。 <p>③川口市関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政評価外部評価委員会委員 (副委員長・第二部会長) として委員会および部会の会議を主宰した。また、川口市企画財政部行政経営推進室の業務に対する助言等を行った (2010 年度より継続)。
<p>2 その他の事項</p>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p>